

9月定例会において申し出ました「ふるさと体験交流館整備事業」の進捗状況について、調査が終了しましたので報告いたします。

11月13日、ふるさと振興課松本課長、渡部補佐、山田主事と工事責任者の説明のもと、現在工事が進行している一階から三階までの入浴施設、食堂、宿泊スペース、研修室、交流スペースなどほぼすべてを調査したところ、10月末現在の工事の進捗率は約45%とのことでした。建物の外部から内部に工事が集中しており、順調な進捗との説明で、従来子供たちの学びの場だった空間が体験交流施設として大きく生まれ変わろうとしていました。

一階は浴槽用のボイラーが設置されるスペースと事務室、玄関が作られ、二階には研修室や交流スペース、男女各浴室と食堂、三階は宿泊スペースが完成に向けて急ピッチで進められておりました。

委員からは、古い建物の改修工事であることから設計の見直しや追加工事の必要性、完成後の運営方法と人材の確保、冬期間の施設の管理について質問が集中しました。

平成31年3月オープンを予定しているとのことでしたが、建物のみならずグラウンドや取り付け道路などの付帯工事も残されており、今後の工事の進捗を継続して注視することとし報告いたします。

産業建設常任委員長 梅津 政志

産業建設常任委員会
「ふるさと体験交流館整備事業」



▲産業建設常任委員会

所管事務調査の報告

平成29年11月13日、新山農林建設課長、小室主事を説明員として、民有林田堀口川向と実沢口、町有林の東谷地山の3カ所を現地調査いたしました。

田堀口川向の杉林は、平成26年度に試験的に皮剥被害防止資材（ウィリーGP）を使用して防除を行った20～30年生の林で、新しい熊剥ぎ被害は見られなかったが、雪害によるものか、ウィリーGPの剥落が少々見られた。

熊剥ぎ防除策には、熊の生息数の削減、獣害防止資材等の設置、テープ、ロープ等の巻き付けなどがあるようですが、当町では平成26年度において森林整備加速化・森林再生事業（森林獣害防止等対策）補助金を活用して、民・町有林合わせて約5ha、324万円で実施しましたが、どのような獣害防止資材の設置が最適か宮城県林業技術総合センターの指導を仰ぎ、施工のプロである森林組合を活用し被害を縮小することが急務と思います。

木材単価の低迷している時代であるが、ダムの町として森林の保護、森林資産の減少防止のために町で行っている防除対策として、民有林に対しては、個人及び団体に被害防止資材購入費用の2/3（限度額30万円）を補助。町有林に対しては、国庫補助金、県補助金をそれぞれ活用している。

これらの事業の啓蒙活動を大にすべきと思います。

以上で報告を終わります。

総務文教常任委員長 武藏 重幸

総務文教常任委員会
「熊の皮剥被害」



▲総務文教常任委員会